

11 RC造タイル外壁へのリフォーム工法

11-1 設計・事前調査・施工上の注意点

5) 胴縁の種類

- 金属胴縁15を使用したRC造タイル外壁へのリフォーム工法に適用します。
- モエンおよびセンターサイディングの横張り工法(縦胴縁)では、金属胴縁15に加え、タイル外壁改修補助部材を指定の間隔(高さ方向1500mm以下)で固定します。

6) 使用可能なモエン・センターサイディング

ニチハMARCシステム RC造 金属胴縁工法		下地間隔	EX				モエンS	モエンM・W		センター サイディング
			21mm	18mm	16mm	16mm	18mm	14mm	14mm	各型による
			455×1820	455×1820	455×1820	455×3030	455×3030	455×3030	910×3030 1000×3030	
横張り	金具施工 (釘打ち不可)	縦胴縁 606mm以下	○	○	○	○	○	×	—	○
縦張り (※)		横胴縁 606mm以下	—	—	—	○	—	×	×	○

・モエンアート(アート下地含む)、モエン大壁工法は使用できません。

・RC造外断熱工法には対応しておりません。

※モエンおよびセンターサイディングの縦張り工法(横胴縁)の場合は、専用部材(タイル外壁改修補助部材)を使用しません。

7) 既存外壁の老朽度調査

- 金属胴縁15の施工前に必ず既存外壁の老朽度調査を行います。
- 調査は目視による確認と、タイル面の全面打診による確認を行います。
- 調査においてタイルや下地モルタルの浮きが確認された場合は、既存タイルを剥がすか補強によるタイル落下防止措置を行います。
- 雨水の浸入に関する問題点が発見された場合は、施工前に必ず当該箇所の止水処理を行います。
- 躯体のひび割れが確認された場合は、漏水の原因になり躯体に悪影響を与えるおそれがありますので、適宜補修を行います。
- タイルや下地モルタルの剥落によって、13mmを超える不陸が発生する場合は、樹脂モルタルを充填するなどして、不陸を3mm以下に調整します。不陸が13mm以下の場合は、スパーサーなどで不陸を調整して金属胴縁15を施工します。
- タイル外壁改修補助部材は、剥離部分やタイルなどを撤去して、不陸が発生している部分はできるだけ避けて施工します。
- 躯体の安全性を確認するために、引っ張り荷重確認試験を必ず実施します。

8) 施工上の注意点

- 施工前に必ずタイルおよび下地モルタルの厚みを確認し、適切な長さのRC用アンカーおよびRC用ビスを使用します。
- RC用アンカーおよびRC用ビスの先孔をあける際、タイルなどが剥落するおそれがありますので、ネットなどで落下を防ぐ措置を講じます。
- 解体時、タイル外壁改修補助部材部分にタイルが溜まっている場合があります。サイディングを撤去する際に溜まっていたタイルが落下するおそれがあるため、解体時にはネットなどの安全対策を講じます。

その他の項目については、ニチハMARCシステムの標準施工法をご参照ください。